

日本におけるアロマンティック、アセクシャルの現状 ー当事者の語りから見てくるものー

常井 あゆみ

アロマンティック、アセクシャルは恋愛指向、性的指向のひとつであり、アロマンティックは他者に恋愛的に惹かれない恋愛指向、アセクシャルは他者に性的に惹かれない人または他者に性的欲求が向かない性的指向を指す。近年セクシャルマイノリティであるL、G、B、そしてTに対しての認知や関心の高まりが注目される中で、アロマンティックやアセクシャルの存在が可視化されるようにもなった。しかし、LGBTと比較すると、アロマンティックやアセクシャルは学問分野的にもまだ歴史が浅く、認知度が低いセクシャリティであるという現状がある。特に日本では海外と比べると研究が進んでおらず、自身のセクシャリティから生じる生きづらさや対人関係などについて着目した研究はほとんどない。そこで、アロマンティックやアセクシャルの当事者にインタビューを行い、当事者が現代社会の中でどのようなことを感じながら生活をしているのかを明らかにし、また、彼ら彼女らの語りを通して、「生きづらさ」の理由となる社会通念を通して、アロマンティックやアセクシャルが現代日本においてどのように捉えられているのかを明らかにすることを研究目的とした。調査方法としては、Twitterで募集したアロマンティックやアセクシャルを自認している方々にインタビューを行うというものであり、2021年3月から2021年12月の期間で総勢19名の方に半構造化インタビューを行った。

調査の結果、大きく以下のことが分かった。一つ目はカミングアウトや周囲とのコミュニケーションにおいて、セクシャリティの概念自体が知られていないこと、「見えづらい」セクシャリティであることが当事者の行動を制限すること。二つ目は恋愛において、マジョリティが持つ「恋人」の条件を満たすことが難しいために関係を維持することが困難であること。そして三つ目は結婚を愛の結果としての行為ではなく目的のための手段だと捉えているために結婚が困難となり、当事者の結婚への意識が低くなることである。

これらを引き起こす要因として、強制的恋愛や強制的性愛といった「人は誰しも恋愛、性的に他者に惹かれるものだ」という社会通念が存在することや、「恋愛と性愛はセットである」や「結婚には恋愛が必要である」というようなロマンティック・ラブ・イデオロギーの影響を色濃く受けたものがあるとし、当事者たちが友情結婚やコミュニティの運営など様々な方法でそのような社会通念やイデオロギーに対抗していることが分かった。

本研究は、当事者と社会の関係について概観をまとめるような内容となった。今後はさらに焦点を絞った研究が行われることを望む。

(指導教員 照山絢子)